

専門課程シラバス

授業科目	母性看護学実習			担当者	有光育代		
	開講時期	2年後期・3年前期	授業の方法		臨地実習	単位数	2
授業概要	母性看護の対象をとおして母性の特性を理解し、対象とその家族に対する看護を学ぶ						
授業計画	<p><病棟実習> 周産期にある対象をとおして母性の特性を理解し、対象とその家族に対する看護に必要な基礎的能力を養うことを目的とする。 (受け持ちについて) ・女子は妊婦、産婦、褥婦を受け持ち、男子は新生児を受け持つ。 ・産褥期・新生児期の看護は、母児一体で実施するので、女子、男子とも褥婦、新生児の記録用紙に情報を記入する。情報は、指導者から収集するとともに、女子は男子から新生児の情報を男子は女子から褥婦(母親)の情報を収集し、記録用紙に記入する。 ・午前・午後の観察結果を記入する。 ・受け持ち期間中、1日1枚記載する。 ・対象に適した看護の展開を行う。</p> <p><演習> 紙上事例の展開やロールプレイをとおして母性看護の対象や母性の特性を理解し、対象とその家族に対する看護を学ぶことを目的とする。 (内容) ・DVD視聴・ロールプレイを行うことで、対象に必要な基本的技術、援助の目的を理解する。 ・対象に適した、看護の展開を行う。</p> <p><産科外来実習> 周産期にある対象をとおして母性の特性を理解し、対象に必要な看護と、保健指導を見学し外来看護を学ぶことを目的とする。 (内容) ・1日に1～2名の妊婦を受け持ち、妊婦健康診査・保健指導を見学する。 ・母親学級を見学する。 ・実習終了時に実習指導者から助言を受ける。</p> <p>・実習最終日に反省会を行い、情報交換する。</p>						
テキスト参考文献	系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論(第14版) 医学書院						
成績評価の方法	評価は、臨地実習指導要綱と各科目の目的・目標および評価基準に基づき行う。出席状況、看護実践の場面、実習記録、カンファレンスへの参加度、看護過程展開内容から総合的に目標の達成度を判断する。						